たのしいかぞく

『パディントンの大切な家族』

マイケル・ボンド//作

福音館書店 ☆☆☆

ロンドンのブラウンさん一家とくらしていたパディントンのまえに、ペルーに住むルーシーおばさんが登場します。パディントンはペルーに帰ってしまうのでしょうか。行くところ行くところで、さわぎを起こすくまのパディントンの 10 さつ目のおはなし。パディントンにとって大切な「家族」とは…。

（シリーズあり）

『レンタルロボット』

滝井 幸代//作

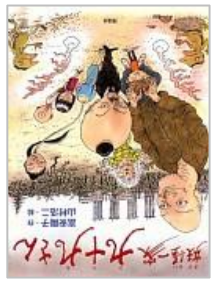
学研教育出版

☆☆

『妖怪一家九十九さん』

富安 陽子//作

理論社 ☆☆



化野原団地の地下 12 階に住む九十九さん一家、実は妖怪なのです。家族で夜のピクニックに出かけると、だれもいないはずのお店にあやしい二人の男が…。妖怪家族の 7 人が大かつやく。（シリーズあり）

『ビーザスといたずらラモーナ』

ベバリイ・クリアリー//作

学研教育出版

☆☆☆

ビーザスのなやみのたねは、妹のラモーナです。やんちゃでききわけのない、いたずらっ子の妹と姉を、ユーモラスにえがいた楽しい物語です。　　　（シリーズあり）

たいせつなかぞく

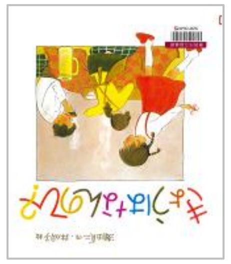
『きょうはなんのひ？』

瀬田 貞二//作

林 明子//絵

福音館書店

☆



『火のくつと風のサンダル』

ウルズラ・ウェルフェル//作

童話館出版 ☆☆

チムはともだちからからかわれて、ほかの男の子になりたいとなやみます。それを知ったお父さんは、チムのたんじょう日に新しいくつをプレゼントし、夏休みにふたりで世界へぼうけんの旅に出ようともちかけました。

『にぐるま ひいて』

ドナルド・ホール//文

バーバラ・クーニー//絵

ほるぷ出版

☆

『ヤマトシジミの食卓』

吉田 道子//作

くもん出版

☆☆

☆☆

『海べのあさ』

ロバート・マックロスキー//文・絵

岩波書店

（キリトリ線）点線に沿って二つに折り、切り込みを入れてから線の位置で折りたたむと小さい冊子になります

『海のうえに暮らす』

「地球ものがたり」シリーズ

関野 吉晴//著

ほるぷ出版

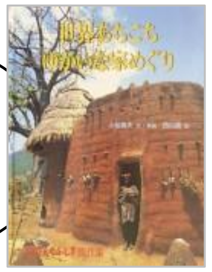
☆

『世界あちこち

ゆかいな家めぐり』 ☆

小松 義夫//写真 西山 晶//絵

福音館書店



読んだ本の☆をぬってみよう！

いくつぬれたかな？ □ コ

2022.3 発行

～テーマ別ブックリスト～

かぞくっていいね

【3・4年生】

『いろいろいろんな

かぞくのほん』

メアリ・ホフマン//文

ロス・アスクィス//絵

少年写真新聞社

☆

『ペニーさん』 ☆

マリー・ホール・エッツ//作

徳間書店

（シリーズあり）

豊岡市立図書館

いろいろかぞく

『かあちゃん取扱説明書』

いとう みく//作

童心社

☆☆

『カルペパー一家のおはなし』

マリオン・アピントン//作

瑞雲舎

☆☆☆

カルペパー一家は 10 人家族で、すてきな 2 かいだての家に住んでいる紙人形です。ある日のこと、カルペパー家の人びとは外の世界へ通じるドアのすきまを見つけました。かれらはドアの下をくぐりぬけて、出かけていきます。

さあ、新しいぼうけんがまっています。

『小さなバイキング ビッケ』

ルーネル・ヨンソン//作

評論社

（シリーズあり）

☆☆☆

ビッケはバイキングの子どもです。バイキングとは船に乗って町をおそう海ぞくのことです。ビッケの父ハルバルは、だれもがおそれるバイキングの族長。そんなハルバルは弱虫で心やさしいビッケのことをなさけなく思っていました。

ところが、なかまがとらえられた時、てきの海ぞくにおそわれた時…ビッケは頭を使ってピンチを切りぬけていきます！

『のんきな父さん』

丘 修三//作

小峰書店 ☆☆

マイペースな父さんは、新聞をくばるのにも丸一日かかります。それにはだれも知らない理由があって…。

（「のんきな父さん」）

ほか、4 つの心あたたまるおはなしが入っています。